

憲法を学問するIV

近代立憲主義とポスト現代国家

日程 2019年11月30日(土)～12月1日(日)
会場 大学セミナーハウス(東京都八王子市下柚木1987-1)

講師紹介 (五十音順)



蟻川 恒正
日本大学大学院
法務研究科教授



石川 健治
東京大学
法学部教授



木村 草太
首都大学東京
法学系教授



宍戸 常寿
東京大学
法学部教授

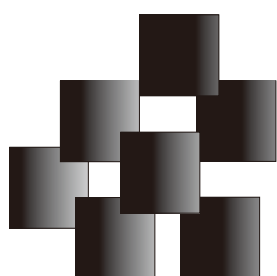
趣 旨

最もなじみがあるにもかかわらず、実は非常に勉強しにくい法である憲法。学校や報道を通じてすでに知っている気でも、「もっと突込んで、憲法のほんとうの意味を正しく理解しようという段になると、にわかにおそろしくむずかしくなる」(清宮四郎)のです。そこで、大学セミナーハウスの発案により、一般の市民や学生が、第一線の研究者と直接に交流し、ともに学び考える合宿セミナーが企画されました。それが「憲法を学問する」です。2016年6月に行われた記念すべき第1回セミナーの内容は、樋口陽一・石川健治・蟻川恒正・宍戸常寿・木村草太『憲法を学問する』として、今年の憲法記念日に有斐閣から公刊されています。

そして、続編を期待する多くの参加者の声に背中を押していただき、今年も「憲法を学問するIV」を開催する運びとなりました。これまでの「学説」・「判例」・「人と事件」をテーマとして、学界のレジェンド樋口陽一先生を中心に語り合ってきた前3回は異なり、今次のセミナーでは、来たるべきポスト現代の憲法状況に対して、日本国憲法の掲げる近代立憲主義はいかに立ち向かうべきかを、われわれ講師4人が参加者とともに考えていきます。

そのために、これから議論の軸になると思われる、4つの論点が精選されました。講師はそれぞれ、既発表の著書論文とできるだけ重ならないテーマを選ぶようにしましたので、ここでしか聴けない議論が展開されるはずですが、一見抽象度の高い問題設定のようですが、いわゆる「改憲」の論点を、より広い視野から考えるためには、不可欠のものばかりです。参加者の方々には、分科会や夕食・フリートークの時間に、ふだん感じている率直な疑問や、生活実感に基づく具体的な問題を、どんどん出していただきたいと思います。

「近代立憲主義とポスト現代国家」ときいて、よく似た題名の本を思い浮かべた方、呈示された4つの主題にピンときた方、フ〜ンと思っただけの方、みなさん大歓迎です。多くの方々の積極的なご参加を期待してやみません。

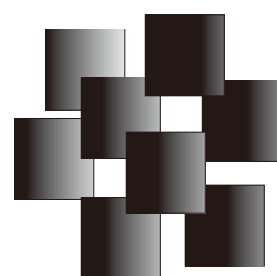


パネルディスカッション
石川 健治
東京大学
法学部教授

蟻川 恒正
日本大学大学院
法務研究科教授

木村 草太
首都大学東京
法学系教授

宍戸 常寿
東京大学
法学部教授



分科会

第1分科会「競争と価値」

石川 健治（東京大学法学部教授）

グローバル化した現代社会においては、他者と競争するのが当然であり、その結果として生じた勝ち組・負け組の区別も、競争に勝ち残れなかった者の自己責任・自業自得として受け容れられているようです。競争原理の下で、構造的「弱者」に対する生活保護までが、競争を免れた「既得権」として目の敵にされる一方で、競争によってますます利益を得るはずの「勝ち組」が、既得権益の破壊を叫んで、選挙などで「負け組」の支持を集める、という倒錯した現象も目立ちます。そうした競争社会は、憲法とどういう関係にあるのか？競争を通じた効率性の追求と、憲法的価値との関係は？参加者のみなさんとともに考えたいと思います。

第3分科会「グローバルとローカル」

穴戸 常寿（東京大学法学部教授）

近代立憲主義の歴史は、国民国家の形成と変容の歴史でもありました。国家という現象は、現在、国際社会のネットワークの中に絡み取られ、様々な機能や文脈に分化しています。地理的な生活空間である地域も、人口減少や世代構成の変化により、再編を迫られています。グローバル化とローカル化によって、国家と憲法は、いわば挟み撃ちになっている格好です。こうした現代的課題と立憲主義の関係について、皆さんと議論したいと思います。

第2分科会「アルゴリズムと個人」

蟻川 恒正（日本大学大学院法務研究科教授）

今日、AI（人工知能）の利用が高まっています。AIの判断はアルゴリズム（問題解決の手順）が導く最適解と考えられがちですが、AIにも偏見があり、差別を生むことがあります。なぜAIによる決定を受け入れなければならないかという問題もあります。権力と個人という憲法学の古典的問題は、アルゴリズムと個人という問題に形を変えて、再吟味を必要としています。近代立憲主義とAI社会の間で視線を往復させながら、皆さんと議論できるのを楽しみにしています。

第4分科会「象徴と代表」

木村 草太（首都大学東京法学系教授）

戦後第一世代に属するある憲法学者は、「代表」について、イデオロギーと理念の対比という観点から分析しています。イデオロギーとは、現実を隠蔽する表象と定義されます。憲法学において、「イデオロギー批判」は重要なキーワードであり続けてきました。このことを踏まえ、日本国そして日本国民統合の「象徴」について考えてみましょう。この分科会では、多くの人が意識の外に置きがちな「ある憲法問題」の解答を探ることを目標とします。

プログラム

11月31日（土）

12:50 受付
13:20 開会
13:30 パネルディスカッション（分科会講師）
15:00 オリエンテーション
15:30 分科会 I
18:00 夕食・フリートーク

12月1日（日）

9:00 分科会 II
10:30 分科会報告
12:00 昼食
13:00 総括討論・質疑応答
15:10 記念撮影・閉会（解散 15:30）

交通案内

東京駅より約1時間30分、羽田空港より約2時間

■最寄駅

JR 八王子駅
京王線北野駅
京王相模原線南大沢駅

各駅よりバス→約15～25分
（野猿峠バス停下車徒歩5分）
各駅よりタクシー→約10～15分

*詳しくはホームページの〈アクセス〉をご覧ください。

募集要項



対象：大学生（大学院生含む）および社会人

定員：50名

参加費：会員校学生 7,000円
一般校学生 9,000円、社会人 15,000円
宿泊、食事、資料代、消費税を含む。

宿舎：学生：相部屋、社会人：個室

分科会：原則として分科会への配属は、事務局にお任せいただきますが、特にご希望の分科会がおありの場合は、申込フォームにご記入ください。ただし、ご希望にそえない場合もございますことをご了承ください。
（配属結果は当日のお知らせとなります）

申込方法：「大学セミナーハウス」HPのセミナー申込フォームよりお申し込みください。

申込締切：11月20日（水）

お問合せ先：大学セミナーハウス・セミナー事業部

TEL 042-677-0141 / FAX 042-676-1220

E-mail seminar@seminarhouse.or.jp

URL <https://iush.jp/>

 大学セミナーハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE